

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子どもの発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導 教育環境整備		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「教員の専門性」「児童生徒の実態の的確なとらえ」についてはそれぞれ77%、80%が当てはまるとの結果であった。一方「授業内容が児童生徒の実態に即している」「児童生徒一人一人にあった教材教具が準備されている」についてはそれぞれ69%、64%であったため、組織としての児童生徒の実態の把握と授業研究や教材備品の充実も含め、個に応じた教材の準備等に取り組んでいかなければならない。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①適切な教育計画の立案、実施に努める。 ②児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程を編成する。 ③児童生徒一人一人にとって効果的な個別の指導計画と個別の教育支援計画を作成する。 ④地域に根ざした学校作りを目指し情報発信を積極的に推進する。 ⑤自作教材の製作、活用の支援と教材情報の共有を図る。 ⑥教材備品等教育環境の整備と使用振興に努める。 ⑦各種情報コンテンツの管理及び提供に努める。 ⑧教育実践の充実につながる研修情報の提供と研修計画を推進する。 ⑨日々の教育実践に有効な研究課題を検討する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、各学部会 ・教育課程ワーキング会（学部、分掌を越えた協議の場）の設置		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 教育課程の検討 (2) 個別の指導計画と個別の教育支援計画の様式の検討と作成 (3) 運動会や学校祭等地域に広くアピールした学校行事の開催とホームページからの教育実践の発信 (4) 研修を通じての自作教具の作成 (5) 教材の整理と使用のためのリストの作成及び必要不足教材備品の調査と入手 (6) 職員からの研修希望に基づく研修の実施 (7) 一人一実践を目指した研究授業の実施	(1) 児童生徒の実態やニーズに即した指導計画、教育課程の編成 (2) 保護者と一緒に作り上げる個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成 (3) 行事の開催状況とホームページの充実 (4) 自作教材の授業における活用 (5) 教材備品の整備状況 (6) 職員研修の実施状況 (7) 研究授業の実施状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①開校初年度ではあるが児童生徒の実態を受けて教育課程を見直した。	①児童生徒一人一人の実態に即した教育課程となっているか	A ② C D	
②個別の指導計画と個別の教育支援計画の様式を検討後作成した。	②実際に活用できるものが作成できたか	A ② C D	
③多くの地域の方からの協力を得て運動会、学校祭を開催した。	③地域に根ざした行事が実施できたか	A ② C D	

<p>④ホームページを立ち上げ教育実践について発信した。</p> <p>⑤機会を捉え教材備品の購入と既製、自作を含めた教材リストを作成した。</p> <p>⑥寄贈本を中心とした図書室充実と貸出に向けて図書整理を実施</p> <p>⑦職員研修として教材（大型吊り遊具）を作成、幅広い学年、学部を通じて活用された。</p> <p>⑧授業実践をまとめた実践集を作成した。</p>	<p>④情報発信する場として有効であったか</p> <p>⑤⑥⑦要な教材備品が整備され活用されているか。</p>	<p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○可児、加茂地区に初めて開校した特別支援学校として、学校祭等の行事へ地域の多くの方々からの参加と協力を得て開催することができた。また、図書の寄贈等、教材備品充実へ多大な協力もいただいた。</p> <p>▲開校初年ということもあり、教育実践に基づいた教育課程の検討や学習指導のあり方について検証を十分に実施することができなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A ② C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に即した教育課程や学習指導のあり方についてさらに検討をすすめる。 ・作成した個別の教育支援計画と個別の指導計画がより効果的なものになるよう関係機関と連携し積極的に活用を図る。 ・あらゆる機会を捉え不足している教材備品等の充実を図る。 ・ホームページ、配布物等を通じて行事や教育活動について積極的に地域へ発信する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が子どもたちへの対応や授業にとっても熱心に取り組んでいる。また、児童生徒の障がいにあわせた指導がなされている。 ・アンケートで「児童生徒が生き生きとして楽しそうである」の評価が高いが、実際見てもそのように感じる。 ・備品といったハード面ではまだ不十分であるが、それがソフト面での先生のよい取り組みになっている。 ・先生の手作りの教材を用いた熱心な取り組みと指導がなされている。 ・備品が必要とか、予算が足りないときとか、積極的に県に要望し、学校の充実をしていただきたい。 ・地域へ学校の様子を情報発信するとよい。 ・各市町村の教育施設との連絡・連携をとっていくと、今後の可茂特別支援学校の教育活動への移行がスムーズになるのではないか。

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子どもの発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇健康安全（保健、防災、施設・設備、給食）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「医療機関との連携による健康管理」については77%、「緊急時の対応」については82%、「施設・設備の安全管理」については84%の方々から評価を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自ら安全な生活を実践できるよう、学校保健及び教育環境、安全の充実に努める。 ・児童生徒が栄養のバランスがとれた食生活を身に付け、学校生活を豊かに送れるよう、給食内容及び給食環境の充実に努める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・健康安全部、各学部会 ・医療的ケア検討委員会、学校保健安全委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 医療的ケアの実施 (2) 学校保健計画の作成 (3) 緊急時の対応についての研修会の実施 (4) 事故等の再発防止のために、事故等発生後の状況の分析と報告の徹底 (5) 毎月の安全点検日における、全職員による施設・設備及び、遊具等の点検の実施 (6) 防災安全計画の作成、避難経路の検討及び避難訓練の実施 (7) 美濃加茂市給食センターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 指導医、主治医、保護者等と連携し、医療的ケアが実施されている状況 (2) 児童生徒の実態及び学校医等との連携状況 (3) 研修会後の意識の向上と対応の改善状況 (4) 発生した事故と同様の事故等の再発状況 (5) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性・点検後の適切な処置・処理の実施状況 (6) 避難訓練の実施状況及び実施後の改善状況 (7) 毎日の給食の運営状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・主治医・指導医・保護者等との連絡をしっかりととりながら、安全な医療的ケアの実施に向けて慎重にすすめた。 ・毎朝の児童生徒の健康観察及び、学校医による定期健康診断等により、児童生徒の健康上の実態把握に努めた。 ・傷病事故防止のためのマニュアルを作成し、全職員で研究会を行った。 ・インシデント・アクシデントの報告をもとに、事故や怪我の発生状況の共有化を図った。 ・毎月1回、全職員により施設・設備及び遊具等の安全点検を行い、報告・修繕の措置をとった。 ・学校全体で2回の避難訓練を実施し、マニュアルや避難経路の見直しをその都度行った。 ・給食配膳施設、設備等の衛生管理の徹底を第一に配膳を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と連携して、児童生徒の健康管理が適切に行えたか。 ・事故や怪我の報告を共有し、同じような事故等の再発防止や、緊急時の対応が適切にできたか。 ・施設・設備及び、遊具等の点検は、常に安全に留意するという意識をもって取り組めたか。 ・防災に向けての取り組みは、職員が危機管理意識をもって適切に実施できたか。 ・配膳の衛生管理を徹底することができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11	○医療的ケアは、担任、看護講師、保護者等の連携がスムーズにとれ、児童	

<p>成果・課題</p>	<p>生徒が体調を整えながら安心して学校生活を送ることができた。</p> <p>○施設・設備及び、遊具等の安全点検を月1回実施することで教育環境を安全に保つことができた。また、安全に留意するという意識が高まった。</p> <p>○2回の防災避難訓練を通して、より安全な避難の仕方を考えることができた。</p> <p>▲インシデント・アクシデントの事例報告により、事故や怪我の発生状況の共有化を図ったが、若干の怪我等の事例が報告された。慣れによる事故を防ぎたい。</p> <p>▲食育指導を充実させたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
--------------	---	------------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医等との連携をさらに深め、緊急的な対応能力を高められるようにする。 ・これまでの医療的ケアの実践を見直しながら、本校用の医療的ケア実施マニュアルを作成し、より安全に医療的ケアを実施できるようにする。 ・インシデント・アクシデントの報告事例を年度初めに全職員で共有化し、同じような状況下での事故や怪我等を未然に防ぐことができるようにしていく。 ・避難経路や防災への対応について、消防署等の専門機関からのアドバイスを受けながら常に見直しをし、改善を進める。 ・児童生徒数増加に伴う給食配膳の準備。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配膳車には、カーテンやカバーがついて、安全安心に対応されている。配膳時には、特に衛生面に注意して取り組んでほしい。

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子ども達の発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・地域支援	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点としていた安全、緊急時対応に関する良評価 82 % ・特別活動に積極的に取り組むことができ、児童生徒が生き生きと楽しそう 89 %、一人一人の障がいや程度に応じた教育 77 %と良評価 ・相談しやすい雰囲気 80 %は、日常的な教育相談が良評価 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 ＜生徒指導＞①② ＜教育相談＞③④ ＜地域支援＞⑤	<ul style="list-style-type: none"> ①社会生活に必要なルールやマナー、安全に関する学習を通して、基本的な生活習慣や生活全般における望ましい生活態度の育成を図る。 ②児童生徒の自主的・実践的な態度を育て、豊かな人間性を育むため特別活動(児童生徒会、MS リーダーズ活動、部活動等)の定着を図る。 ③教育活動のあらゆる場面で適切な教育相談活動を行うとともに、児童生徒、保護者のニーズに応じた教育相談活動に積極的に取り組む。 ④児童生徒についての職員間の共通理解を図り、児童生徒のよりよい環境(学習・生活)を整える。 ⑥地域の幼稚園・保育園、小・中・高等学校及び関係諸機関等と連携しながら、地域の幼児児童生徒の支援相談や各種研修会要請等に応じる。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援部、生徒指導委員会、各学部会、各学年会 ・地域支援センター 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①安全危機管理に関する組織的な対応訓練等 ②児童生徒会活動、MS リーダーズ活動等への支援 ③児童生徒の居住地での支援体制作り ④学部ごとの面談会、相談会の開催と職員間の共通理解のための全校・学部ごと会議等の設定 ⑤地域支援のためのパンフレット作成と配付	①訓練と緊急時等への対応の状況 ②活動状況 ③④問題行動、欠席、遅刻等の件数 ⑤地域支援件数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①捜索訓練(3回)、不審者対応訓練及び研修会(各1回)、交通安全教室(2回)の実施、すぐメールの活用 ②各学部集会、児童生徒会、MS リーダーズ活動への積極的取組み ③地域連携協働会議の開催 ④全校職員での児童生徒の共通理解 ⑤各市町村、各学校への各種相談支援	①各種訓練に取り組む組織的な体制を整えることができたか。 ②挨拶運動、交通安全啓発運動、ボランティア活動等に取り組めたか。 ③地域の福祉、教育機関との連携が図れたか。 ④全校職員で児童生徒の共通理解を深め、全職員での支援体制作りができたか。 ⑤地域の市町村、学校への各種相談支援に取り組めたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の安全を守るための指導体制の基盤を整えることができた。 ○児童生徒支援のための地域での連携を進めることができた。 ○必要に応じた児童生徒一人一人の共通理解を図ることができた。 	
	総合評価	

<p>・ 課題</p>	<p>▲児童生徒の日常的な相談対応のための工夫が必要。 ▲地域支援対応のための職員研修とその態勢作り。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案 ○安全な通学のための自転車免許制の導入と保険加入の原則化、及びバス路線開設交渉の継続。 ○日常的な相談対応のための保健室担当分掌員の設置。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】 ・このような学校が身近にあることが大変良いと思う。保護者の悩みや、特別支援教育に携わる職員の相談の窓口となっていたら良い。 ・地元地域として、児童生徒の交通安全の協力はできる限り行いたい。</p>
--

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子どもの発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇進路支援	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「10. 進路の連絡や情報提供を適切に行っている」の評価は低く、教育方針や指導の内容も含めて、保護者へわかりやすく伝えていく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習、校内作業実習、現場実習についての態勢作りに努める。 ・関係機関との連携を通してより効果的な進路支援を行う。 ・将来を見通して、それぞれの発達段階で必要となる進路につながる取り組みを進める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援部会 ・進路指導委員会 ・各部会 ・作業種検討委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 作業学習、校内作業実習、現場実習についての態勢作り (2) 各諸機関、事業所等との連携、 (3) 保護者との連携	(1) 作業内容、現場実習の生徒の様子 (2) 職場開拓や連携機関との情報により実習受け入れ事業所の件数 (3) 保護者の説明会、研修会への参加状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①中学部作業学習 ②高等部作業学習 ③校内作業学習 ④現場実習 ⑤キャリア教育 ⑥保護者への説明会、懇談会、研修会等の開催	①作業内容と製品の完成度 ②作業内容と製品の完成度 ③作業内容と製品の完成度 ④働く姿勢の様子 ⑤児童生徒の様子・職員の啓発 ⑥保護者の参加、保護者への啓発	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	○作業学習では、各作業班の活動が少しずつ軌道に乗り始めている。 ○校内作業学習では、作業内容や指導態勢が確立できている。 ○現場実習では、新しい事業所の実習受入先が少しずつ増え、事業所との関係も深まった。 ○高等部作業班のキャラクターであった「にこりん」が浸透して、学校のキャラクターとして存在感が増してきた。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・作業種の検討、製品の見直しを行う。 ・現場実習、事業所内作業学習(にこジョブ)に向けて、協力事業所を開拓しながら就労に結びつけていく。 ・学部、学年の実態に応じた研修会を実施していく。 ・卒業生の動向、勤務先の様子などを把握し、追指導を行っていく。 		
総合評価 A (B) C D		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年2月22日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路について、連絡・依頼などをする対象を積極的に広げ、就労の可能性を高めてほしい。 ・新設校のため学校見学者が多いと思うが、その方々といろいろ連携していくとよい。地域の事業所等どのように連携をはかっていくかが課題であると思う。 ・作業製品の値段は、適切である。商品に特殊性や特化性を付加されるとよい。

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号 112

I 自己評価

1 学校教育目標	一人一人の子どもの発達や障がいに応じて、もっとも必要で適切な教育活動の創造に努めるとともに、すべての子どもたちが主体的に力一杯伸びていくため、きめ細やかな指導や必要な支援の充実を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇保護者との連携	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「学校は保護者と一体となってPTA活動を進めている」は78%の評価を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動において、保護者の主体的な参加を目指す。 ・児童生徒、保護者の余暇における生活の充実を目指す。 ・児童生徒、保護者に対する理解者や支援者を増やすことを目指す。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外部 ・PTA執行委員会、PTA各種委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学部委員会ごとの親子ふれあい活動 (2) PTA主体の子育て相談、研修会	(1) 多数の参加が見られるか。 (2) PTAからの主体的な取り組みであるか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①学部委員会ではそれぞれのグループで学校、近隣の施設を利用してPTA役員が主体となり親子ふれあい活動を計画、実施した。 ②PTAからの発案でアンケートをとり、試行錯誤ながら執行委員会を中心に座談会を行った。 ③ボランティアを募り、活動に結びつけた。	①役員と協力して活動を計画実施できたか。 ②積極的な協力を得ることができたか。 ③ボランティアの協力を得ることができたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○執行委員会が主体的に運営することで、役員同士の連帯感を深め、初めての役員にも積極性を掘り起こすことができた。 ○一般の保護者に対して、親子活動や福祉振興大会、座談会、PTA研修会について参加を呼びかけ、積極的な協力を得ることができた。 ○今後は、各PTA活動の内容方法を充実させるとともに、PTA同士のつながりや地域との連携を育てていきたい。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・学校祭などにPTA役員だけでなく、より多くの保護者に参加してもらえるような全校的な活動を掘り起こしていきたい。 ・本年度培った保護者相互の関係を活かして、来年度も座談会や研修会を充実していきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年2月22日

【意見・要望・評価等】 ・保護者と学校との連携はしっかりとれている。 ・いろいろな組織や施設と連携をはかっていると、ボランティアとして活動していただくこともできると思う。
--